

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871000473		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	芦屋ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県芦屋市松浜町13-18		
自己評価作成日	令和4年3月10日	評価結果市町村受理日	令和4年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に公園があり、見慣れた兵庫の山を一望できる魅力がございます。週辺環境が良く近隣からの協力もあり、地域となじみの関係性がございます。認知症の対応においては、専門の資格・経験のある介護士が勤めているため、病状は穏やかに、生活はご本人様のライフスタイルに合わせたサービスを提供できるよう心がけております。医療面でも提携している内科も近く、周辺環境が良いです。定期的な受診や緊急時の受診対応は連携が取れております。また、皮膚科や精神内科、歯科も訪問診療の関係性ができており、ご家族への負担を軽減が可能な体制をお勤めしております。規模の大きな会社が運営している為、介護に関する情報を全国から得ることができ、また災害時や緊急時には、他の施設からの協力を得ることができます。職員の研修も各地で行われており、積極的に参加するようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた閑静な住宅地にあり、地域や近隣からの協力が得られる環境である。利用者とのコミュニケーションを大切に、家族の協力を得ながら、個々の生活歴・ライフスタイルを把握し、その人らしい生活が継続できるよう個別支援に取り組んでいる。PDCAサイクルによる介護計画をもとにした支援体制を整備している。事業所前の花壇で利用者と一緒に季節の花を育て、ユニット内に利用者と一緒に制作した季節の装飾を飾り、手作りの調理を継続し、利用者も家事参加できるよう支援する等、生活に季節感や生活感を取り入れている。協力医療機関・訪問看護との医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護にも対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「私たちは世界一番仲間を大切に するチーム」と改め、一丸となって利用者 様のよりよい実践する為、一人一人の幸せ について考えています。	事業所独自の理念・基本方針を作成し、各フ ロアの事務所に掲示し共有を図っている。事 業所理念の中に地域密着型サービスとして の方針を示している。ユニット会議やカンファ レンスで検討する時には、理念・基本方針に 立ち戻って支援方法を検討する等、理念・基 本方針の実践に向け取り組んでいる。	事業所の理念・基本方針の実践状況を 振り返る機会を定期的に設ける等、 実践に向けた具体的な取り組みが望 まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	近隣自治会や民生委員、シルバー人材の 方々等、コロナ禍の中でもご心配の訪問な どがございました。事業所もお手紙や行事 のおすそ分けなどをする等をしさをやさかです が交流しております。	通常は、散歩・買い物・外食等で地域に出か け、事業所の行事への地域からの参加、ポラ ンティアやトライやるウィークの受け入れ等、 地域交流・地域貢献に取り組んでいる。運営 推進会議で、災害時の避難所としての提案 を行い、地域との協力体制についても話し 合っている。コロナ禍のため上記は休止し ているが、自治会長・民生委員・シルバー人材 センターの方・近隣の方とのつながりを継続 し、地域からの介護相談にも対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	緊急時の福祉避難所として、事業所を利用 して頂きます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	コロナ禍のため面会制限が発令され開催が できずございました。文書での通達のみと なっていました。	利用者・家族代表、市職員、民生委員、自治 会長、権利擁護センター相談員(知見者)・事 業所職員等を構成メンバーとし、2ヶ月に1回 開催している。コロナ禍のため令和2年度か ら、書面開催とし、構成委員(利用者以外)に 議事録を郵送し、利用者状況・職員状況・行 事・研修・新型コロナ対策等について報告し ている。	・議事録に返信用紙等を同封し、構成 委員からの意見・情報を次回の議事 録で共有する等、書面会議でも意見・ 情報交換が行えるようにしてはど うか。 ・個人情報に配慮の上、議事録を公 開することが望まれます

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの空き情報と利用者状況はご報告しています。高齢介護課よりこまめなメール配信いただき、不明確な点は伺うようにいたしました。	運営推進会議を通して、市と定期的な連携がある。公的支援を必要とする利用者について、市のケースワーカーと協働して支援している。質問・相談事例があれば市の担当窓口にお問い合わせ、市からメールで提供される情報も活用し、適正な運営や感染予防策等に反映している。通常は、市から派遣される権利擁護センター相談員の受け入れ、グループホーム連絡会への参加を通じて連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設置しており、毎月各ユニットの状況を話し合って改善策はないかを確認しております。さらに職員には研修を月2回行い、振り返りを行っております。職員間での注意できる関係性は気づき、お客様ファーストに向け努めております。	「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。毎月「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」を実施し、身体拘束・不適切ケア事例を検証し、適正化に向けた検討を行っている。委員会の内容は、議事録の回覧(回覧印)により職員周知を図り、全体会議でも報告し検討している。事業所内研修の年間計画に沿って、「高齢者虐待・身体拘束廃止に向けて」研修を行い、年2回身体拘束廃止について学ぶ機会を設けている。受講者は研修報告を提出し、参加できなかった職員は資料配布・研修報告書の提出により周知を図っている。ユニットのドア・玄関は暗証番号による操作が必要であるが、希望があれば職員が付き添って戸外に出て、閉塞感を感じないように対応している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を設置しており、定期的にセルフチェックシート活用し虐待の芽を摘むよう努めております。	「高齢者虐待防止」についても、上記「身体拘束適正化」と同様に、研修・委員会を通して職員周知を図っている。「虐待の芽セルフチェック表」による振り返りを年1回研修内容に取り入れ、意識向上を図っている。業務・ケアの中で気になる言葉かけや対応があれば、管理者層のラウンド時や、職員間でも注意喚起し、不適切ケアの未然防止に取り組んでいる。管理者層は職場が相談しやすい関係づくりに努め、また、法人としても、相談窓口を設置し、職員のストレスや不安等が利用者へのケアに影響しないよう取り組んでいる。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、利用いただいているお客様の気持ちをお一人お一人大事にしております。また、後見人様等制度の利用されている方にも偏りのないサービスを提供できるよう心がけております。	成年後見制度を利用している利用者が多数あり、後見人・保佐人への利用者状況の報告・金銭管理書類の提供・面会時の対応等、事業所として制度利用を支援している。今後も制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、センター長が相談窓口となり、権利擁護センター等と連携して対応することとしている。	権利擁護に関する制度についての理解や知識には、職員間で個人差がある状況である。全職員が成年後見制度等について一定の知識が得られるよう、学ぶ機会を設けることが望まれます。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	お困り後をより深く伺い、ニーズに合ったサービスのご提案をお伝えしております。また契約時に重要事項説明書等で、可能なこと不可能なことをきちんとお伝えし相互の確認を行っております。入居後はこまめに要望や、ご相談をうかがえる体制をとっております。質問は随時受け付けております。	入居希望があれば、見学時にパンフレットをもとにサービス内容・料金等を説明している。契約時には契約書・重要事項説明書・指針・同意書等に沿って、質問に答えながら丁寧な説明に努め、文書で同意を得ている。医療・重度化対応・面会・外出などについて、事業所で出来ること出来ないことを具体的に説明し、理解と納得を得られるよう努めている。入居後も質問を随時受け付け不安の解消に努めている。契約内容改定時には、変更内容を説明した文書を家族に郵送し、書面で同意を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の中でしたので、月に1度程度ご連絡をさせていただき、現状をご報告したり来客の際にはお写真を見せるなどを行い工夫をいたしました。ご要望などが、ないかはこちらからうかがうようにいたしました。	通常の家族の面会や行事参加は困難であるが、電話連絡の頻度を増やしたり、ラインを活用して写真や動画を送ったり、時期やルールを考慮して短時間面会や来訪の機会を工夫し、家族に利用者の近況を伝え、意見・要望の把握に努めている。家族の来訪時に見てもらえるように、ユニット毎のアルバムも作成中である。把握した意見・要望は、申し送りノートやケアカルテに記録し、職員間で共有している。法人としても、家族アンケートを実施し、家族の意見を把握する機会を設けている。通常は、利用者・家族の運営推進会議への参加、権利擁護センター相談員の受け入れにより、外部者へ意見等を表せる機会も設けている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所では全体会議・リーダー会議にて話を聞く体制を設け、可能な限り意見を反映させています。また、会社組織でも相談改善できる部署の掲示物を張っております。	全体会議・三役会議・ユニット会議を開催し、全体会議の中で委員会(事故対策・衛生管理・感染症対策)を行い、職員の意見・提案を、業務・運営・利用者のケアに反映できるよう取り組んでいる。会議後に会議録を回覧し、職員間で共有を図っている。ユニット会議の前に、リーダーが出席できない職員の意見を聴き、全員の意見が反映できるよう工夫している。カンファレンスやサービス担当者会議でも、職員の意見を利用者支援や介護計画に反映している。日々の職員の意見や提案は、「ケアカルテ」や申し送りノートで共有している。管理者・リーダーが、年2回個人面談を行い、また、随時にも個別に意見を聴く機会を設けている。法人としても、職員アンケートを行ったり、相談・改善提案できる窓口を設置し、職員の意見の把握に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課・契約更改制度を使って、面談等を行い、話を聞いて、目標設定や時には改善と指導に取り組んでいます。また、随時面談を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	センター研修をはじめ本社案内の研修や、資格習得に向けての促しなどを行っております。職員の資格取得にも、補助供与をはじめとして会社・施設として後押ししています。また、現場ではトレーニング制度を設け新入職者の方にも安心していただけるよう体制をとっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中でしたので多職種連携は少なかつたように感じますが、ネットワークの定期的な情報共有はメールなどで行えました。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困り事は何かをうかがい、ご家族様と共に支えていくことを指針に努めております。今までの環境・背景・嗜好等あらゆる角度からサービス体制が行える視点をもって柔軟に対応できるよう努め、受容を大事にしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の悲しみや苦しみ、葛藤等を深く傾聴し、お気持ちやサービス提供の異存はないかを入念に確認しております。大切なご家族様への対応が想像できるよう、連絡を取るよう心がけております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで知り得たニーズを第一とし、初期は短めの計画書を作成し、柔軟に対応の変更ができるよう作成しております。また、ご本人ご家族様に説明を丁寧におこなったうえ同意確認をしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の視界に入るよう目線をさげる、時には同じテーブルでお茶を飲むなどを行い、会話をする機会と時間に関係なく傾聴しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、家族様には日々の状態報告を行い、情報を共有しお互いに支え合えるよう取り組んでいます。事業所でカバーしきれないところは、家族様にもご協力を頂いています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限はございましたが、来客の機会を奪うことなく条件付きで面会いただきました。重ねて認知症のご理解と橋渡しにも努めました。	馴染みの人や場所についての情報があれば、「アセスメント表」・「ケアカルテ」・申し送りノートで共有し、関係が継続できるよう努めている。通常は、家族・友人等の面会や、家族との馴染みの場所への外出を支援している。コロナ禍のため面会や外出が困難な状況であるが、電話、ラインでの写真や動画の配信、時期とルールを考慮した短時間面会等、可能な方法で関係が継続ができるよう工夫している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	周りの利用者同士で交流が持てるように、間に職員が入り、会話が進むように支援しています。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、お手紙をお出したり、お電話で近況を聞いたり、何か困ったことがあればご相談して頂く様に声を掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 (12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いにより添えるように、普段より関わりを増やし、ニーズの把握に努めています。	入居前情報等をもとに利用者個々の思いや暮らし方の希望を把握し、「アセスメント表」の生活歴・居宅での過ごし方・趣味特技欄に記入している。入居後のコミュニケーションから把握した情報は、申し送りノート・「ケアカルテ」で共有し、「アセスメント表」更新時に追記している。把握した情報は、生活支援や「介護計画」に反映できるよう取組んでいる。把握が困難な場合は、表情や反応等から汲み取ったり、家族からの意見や情報をもとに検討し把握に努めている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・家族来訪時に聞き取りを行い、少しでも多くの情報収集に努めています。普段の会話からも、ご本人の来歴を聞き取るよう努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	こまめにモニタリングを行い、状態把握に努めています。毎日の御様子も、職員間で共有できるようにノートで連絡を取り合っています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、現状把握と共に情報共有し、介護計画を作成しています。また、他職種・家族にも聞き取りを行い作成しています。	入居前情報と「アセスメント表」(基本情報・ADL)をもとに、初回の「認知症対応型共同生活介護計画書」を作成している。具体的な支援方法については、「介護援助計画表」を作成している。「モニタリング表」を活用し、「介護計画」の内容の周知を図ると共に、サービス内容ごとの実施状況と評価を毎日記録している。日々の支援や生活の様子は、システム内の「ケアカルテ」に記録している。ユニット会議やカンファレンスで随時検討しながら、定期的には6カ月毎に「介護計画」の見直しを行っている。見直し時は、「モニタリング総括表」による評価と「アセスメント表」による再アセスメントを行い、サービス担当者会議録に利用者・家族の意向、主治医・訪問看護師の意見、事業所内の職員の意見を集約し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段より気づきがあれば、職員同士でも情報の共有化を図っています。介護援助計画表を使用して、情報の共有と統一に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや、入所時の荷物の搬入のお手伝い、書類作成のお手伝い等、可能な限りでサービスを提供しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて自粛要請がありお祭りや体操等地域のイベントなどにも参加できずでした。事業所前の清掃や近隣の住民の方とは挨拶は行いました。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症であっても適切な医療を受けられるように協力医師の連携を取りました。	入居時に確認し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。協力医療機関による2週に1回の内科の訪問診療・週1回の訪問看護、また、希望に応じて精神科・歯科の往診を受けられる体制がある。「訪問診療記録」「訪問看護記録」に記録し、職員間の共有はケアカルテで行っている。通院については事業所が同行支援することが多く、職員が状況説明等を行っている。家族が同行する場合は、主治医の紹介状や事業所からの温度版等で情報提供している。通院については、ケアカルテに記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が月4回とオンコール体制を取り随時連携をとれるようにしております。必要であればかかりつけ医にも連絡を行い、連携しています。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要であれば介護サマリーを提供し、情報を提供しています。また、退院時には地域連携室の方々と連携を取って、速やかに対応しています。	入院時には、「アセスメント表」で情報提供している。入院中は、通常は面会に行き医療連携室と連携を図っているが、コロナ禍のため主に電話で情報交換し早期退院に向け支援している。退院前は電話や、可能であれば病院を訪問し、状態や退院後の生活について情報提供を受け、ユニットのカンファレンスで退院後の支援方法等を検討している。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、必要に応じて介護計画を変更している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段より身体状況を報告したり、事前に看取りについての話し合いを重ねています。重度化した際は改めて説明し、必要であればカンファレンスを行ない方針や対応について共有するよう努めています。	契約時に、重度化・看取りに関する事業所の指針を説明し、同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医から状況説明を受け、管理者が事業所で対応可能な支援を説明し、家族の意向を「意思確認書」で確認している。家族に看取り介護の希望があれば、「看取りの同意書」で同意を得て、看取りに向けた介護計画を作成し、主治医・訪問看護師等と連携しながら、家族の意向に沿った支援に取り組んでいる。年間研修計画に入れ、「看取りケアについて」の研修を実施している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については入職時より連携手順を伝えており、研修も行っていきます。また、事故発生時や事故になり得る状況であった時(ヒヤリ)、報告しカンファレンスを行ない、対応について話し合います。	/		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や研修で改正部を周知しています。災害時の避難場所についても周知を図るとともに、普段より近隣の方にお声をかけ、災害時に協力が得やすいように、努めています。	令和3年度は、6月と1月に火災対応、自然災害対応の避難訓練を実施している。6月は日中想定、1月は夜間想定で、利用者も参加して実施している。訓練前に「消防訓練計画書」を、訓練後に「防災訓練報告書」を作成し、参加できなかった職員にも「消防訓練計画書」を回覧し周知を図っている。コロナ禍以前の運営推進会議で、災害時の避難所としての提案を行い、地域との協力体制についても話し合っている。備蓄品は法人が支給し、管理している。	「訓練報告書」の回覧等により、訓練に参加出来なかった職員にも、訓練内容・訓練結果の振り返り・考察を周知することが望まれます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の観点から、何気ない声掛けが相手にどの様に受け取られるかを考えるように指導しています。また、事業所内外の研修を通じて接遇についても理解を深めています。	「接遇・プライバシー保護」「職業倫理」等の研修の中で、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応等を学ぶ機会を設けている。管理者層の職員が日々の業務の中で注意喚起を行ったり、「身体拘束適正化・虐待防止検討委員会」・全体会議で検討し、適切ケアの未然防止に取り組んでいる。個人記録類は各フロアの事務所の鍵つきのロッカーで保管し、パンフレットやホームページ掲載等の写真・映像使用については、契約時の文書で同意を得ている。		
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定して頂ける様な声掛けを行うようにしています。夜間やご不安な時も随時お話を伺います。	/		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂けるように配慮して、対応しています。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で選んで頂ける方には選んで頂き、難しい方に関しては、本人に合った服装を意識しています。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に関しては調理をはじめ可能な限り行なって頂いています。感謝のお声かけも欠かしません。	法人の献立表をもとに食材を発注し、各ユニットで調理し手作りの食事を提供している。献立は、季節感や行事食の配慮があり、利用者個々の嚥下状態や病態に応じた食事形態には各ユニットで対応している。可能な利用者には残存能力を活かして、野菜のカット・食器洗い等に参加できるよう支援している。デリバリーの活用やおやつ作りの機会を設け、変化が楽しめるよう工夫している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人にあった食事形態を考え、適宜変更しています。また、病状に合わせ医師の採血データより改善できる部分是对応しております。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。ご本人で行なって頂く場合でも、見守り後、職員が不十分な箇所をケアさせて頂いています。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自己排泄が出来るように支援しています。また、排泄リズムの把握に努めています。	ほぼ自立からベッド上での介助まで、排泄の自立度に個人差が大きい状況である。「排泄チェック表」やケアカルテで排泄状況・排泄パターンを把握し、可能な限り日中はトイレでの排泄、自立度の高い利用者については自立の維持に向け支援している。夜間は安眠にも配慮し、利用者個々の状況に応じた支援を行っている。介助方法や排泄用品の使用等について気づきがあれば、ケア記録や「申し送りノート」で経過を共有しながらユニット会議で検討し、現状に即した支援につなげている。誘導時の声掛け・ドアの開閉等、プライバシーへの配慮を周知している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に水分を1500CCを目標、水分量の把握に努めこまめに水分提供をしています。また食物繊維や乳製品の提供、適度な運動を行い、自己排泄をして頂けるように支援しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いくなく入浴に入っていたりとお声がけを行っております。また、個別対応をすることで時間を有意義にとり、リラックスできるよう努めております。	3日に1回の入浴を基本とし、利用者個々の体調や気分に合わせて柔軟に対応し、「入浴チェック表」で入浴状況を把握している。一般浴槽での個浴で毎回湯を入れ替え、自身のペースでゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。身体状況に応じて、シャワー浴・足浴・清拭等に対応している。同性介助の希望があれば同性で対応し、入浴を拒否される利用者には、声かけ・タイミングの工夫、職員の交代等、個別の配慮を行っている。ゆず湯や入浴剤の使用等で、入浴がより楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮して、臥床して頂いたり、ソファでお休み頂いたり、食事時間をずらしたりと工夫して、休息して頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して、最後まで飲み終わったかの確認を怠らない様になっています。また、お薬情報をすぐに確認できるようにファイル保管し、効用などの把握に努め変更時は申し送りを行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前からの情報と現在の会話を通じて本人の嗜好等を把握し、楽しみのきっかけを提供できるよう努めています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会の提供に努めておりましたが、コロナ禍の中でほとんどできず、事業所内で気分転換下肢筋力の低下予防に努めました。	コロナ禍以前は、散歩・買い物・外食等に出かけたり、少人数で初詣・花見・ドライブ等、外出する機会を設けている。コロナ禍のため外出は休止しているが、事業所前の花壇やベンチを活用し、外気浴や花壇の手入れを行ったり、事業所周辺を散歩する等、戸外で気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理が可能な方は、高額にならない程度で、ご自身で管理される方もいますが、管理が難しい方に関しては、事業所で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の希望があれば、行なって頂いています。相手様にも出来るだけご協力頂くようお伝えしています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出しています。利用者や家族様が作成した装飾や季節の花を花瓶に生けたり工夫しています。	共用空間に、テーブル席・ソファを配置し、配席にも配慮し、くつろいで過ごせるよう支援している。利用者と制作した季節や節句に因んだ作品を飾り、事業所前の花壇に花を植栽し、季節感を取り入れている。時間帯により照明の色や明るさを変えたり、加湿器の設置や換気・消毒・掃除の強化により、快適で衛生的な環境整備に努めている。調理・洗濯ものたたみ・花壇の手入れ等への参加を支援し、利用者が生活感を感じられる機会作りを行っている。通常は、ユニット間の行き来を自由にし、生活空間を広く、他のユニットの利用者とも交流できるよう支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士でお話しされる様に、食事の座席やリビングのソファの配置に配慮しています。職員も随時お声をかけます。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族様と相談のうえ、ご自身のなじみの物を持ち込んで頂くよう、お声をかけさせて頂いています。	各居室に、ベッド・クローゼット・カウンター等が設置されている。箆笥・テレビ等の使い慣れた家具や、家族の写真・ぬいぐるみ・仏壇・ギター・木彫りの作品等の好みのものが持ち込まれ、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。利用者の状況に応じて、動線を考慮した家具の配置や、清潔保持の支援等、個別の配慮を行っている。利用者担当職員が中心となり、家族と連携しながら衣替えや環境整備を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることと出来ない事の把握に努めて、自立できるところは継続して出来るように意識しています。		